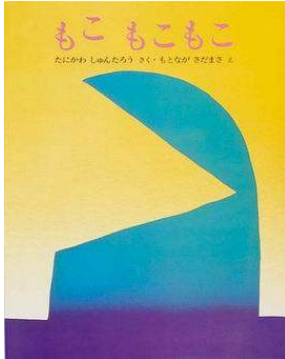


ちいさなほんだな No.1



『もこもこもこ』  
たにかわしゅんたろう さく  
もとながさだまさ え  
文研出版

言葉に合わせて体を動かしたり、  
思わず「もこ」と繰り返して言っ  
たり。子供たちは不思議な世界を  
全身で受け止めます。  
擬音語と抽象的な絵だけで構成さ  
れた絵本ですが、物語が生まれ、  
やがて終わり、また新たに始まる  
ことが幼い子供にもちゃんと分か  
ります。子供から大人までファン  
の多い絵本です。

→ 音の響きを楽しむ絵本

『ことばあそびうた』

(谷川俊太郎 詩 瀬川康男 絵 福音館書店)

---

---

---



『くだもの』  
平山和子 さく  
福音館書店

触ったら、手に水滴がつきそう  
なぶどう。かぶりついたら、甘  
酸っぱい味が口中に広がりそう  
なりんご。まるで本物のように  
みずみずしい絵に子供たちは手  
を伸ばします。

くりのいがに触って「いたい」  
と言ったり、いちごをつまんで  
食べるまねをしたり、絵本から  
想像を膨らませていることが分  
かります。

→ こんな食べものの絵本もあります  
『まるくておいしいよ』  
(こにしえいこ さく 福音館書店)

---

---

---



『たまごのあかちゃん』  
かんざわとしこぶん  
やぎゅうげんいちろう え  
福音館書店

「でておいでよ」と呼びかけると、「ぴっぴっぴっ」とにわたりのあかちゃんが出てきます。子供は、隠れているものが出てくる場面が大好きです。隠れているものは何だろうと考え、期待し、知っているものに会える喜びを味わいます。

この絵本には、いないいないばあに共通する楽しみがあります。いないいないばあをするように、楽しく読んであげてください。

→ 隠れているものが登場する絵本  
『でてこいでてこい』  
(はやしあきこ さく 福音館書店)

---

---

---



『まるくておいしいよ』  
こにしえいこ さく  
福音館書店

子供の好きな丸くておいしいものが次々登場します。「これなあに」と尋ねると、当てずっぽうで答えを叫んだり、考え込んだり、様々な反応があります。ページをめくってお菓子や果物が出てくると、当たっていても外れていても、嬉しそう。クッキーやのりまきの丸の違いに気づいたり、じっくり眺めて好きなものを選んだり、繰り返し楽しめる絵本です。

➔ あてっこを楽しむ絵本

『いるいるだあれ』

(岩合日出子 ぶん 岩合光昭 しゃしん 福音館書店)

---

---

---



『もうおきるかな?』  
まつのまさこ ぶん  
やぶうちまさゆき え  
福音館書店

画家の萩内正幸さんは、動物を何時間も観察してから、写真もモデルも見ないで頭の中で動物を自由に動かしながら絵を描いたそうです。

どの動物も、そっと体に触ると、体温が伝わってきそうです。満ち足りた眠りと目覚めは、どんな動物にとってもしあわせなひとときです。もちろん人間の親子にとっても。

→ 萩内さんの動物の絵本  
『どうぶつのおかあさん』など  
(小森厚 ぶん 萩内正幸 え 福音館書店)

---

---

---



『くらいくらい』  
はせがわせつこ ぶん  
やぎゅうげんいちろう え  
福音館書店

最初に見えるのは、黒いシルエット。「まっくら くら くら くらーい くらい でんきをつけて ちょうだい」の言葉でページをめくると、シルエットだった登場人物が、電気に照らされて笑顔でこちらを見えています。

少し年齢の高い子供は、電気のひもを引っ張るまねをしたり、「カチッ」と合いの手を入れてくれたりします。単純な繰り返しの絵本から少しステップアップして、物語への橋渡しになるような絵本です。

→ 同じ登場人物が活躍する絵本

『めんめんばあ』『おでかけばいばい』

(はせがわせつこ ぶん やぎゅうげんいちろう え  
福音館書店)

---

---

---



『サンドイッチサンドイッチ』  
小西英子 さく  
福音館書店

お料理のレシピのような絵本です。この通りに作れば、おいしいサンドイッチができあがります。

読んでもらった子供は、実際に作ったような気持ちになります。読むだけでなく、親子で作ってみても楽しいですね。

みずみずしい野菜やおいしいハムやチーズをたっぷりはさんだサンドイッチ、大きな口でがぶっと召し上がれ。

➡ おいしいものが作れる絵本

『しろくまちゃんのほっとけーき』

(森比左志、わだよしおみ、若山憲 著 こぐま社)

---

---

---



『おにぎり』  
平山英三 ぶん  
平山和子 え  
福音館書店

おいしそうに炊き上がったあつあつのごはんが、ふっくらと優しくそうな手ににぎられて、おにぎりになっていく様子を描いた絵本です。おにぎりをにぎる手元の所作の美しいこと！おにぎりとは、まさに手づくりのごはんなのだと感じます。丁寧に描き込まれた絵からは、湯気の温度やのりの香りまで伝わってくるよう。子供たちも思わず手をのばしたり、口にいっぱいよだれをためて見ていたりします。

➔ 思わず手を伸ばしたくなる食べ物の絵本  
『くだもの』  
(平山和子 さく 福音館書店)

---

---

---





『でんしゃはうたう』  
三宮麻由子 ぶん  
みねお みつ え  
福音館書店

電車が駅を発車して、次の駅に着くまでの様子を全て音で表現した絵本です。電車の絵本はたくさんありますが、ここまで音に特化したものはこれが初めてではないでしょうか。

「たたっ つつつつ たたた つつつつ」という音は、口に出してみると、たしかに電車が走る音にそっくりです。読んでいるそばから、まねして口に出す子供や、電車になったつもりで動き出す子供もいます。リズムカルに読みましょう。

→ 電車の絵本

『しゅっぱつしんこう！』  
(山本忠敬 さく 福音館書店)

---

---

---



『おさんぽおさんぽ』  
ひろのたかこ さく  
福音館書店

雨上がりに長靴をはいて歩く子供の足元をクローズアップした珍しい絵本です。

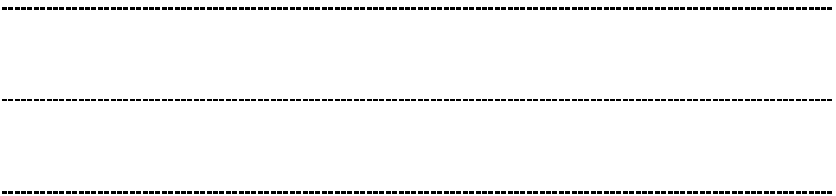
どンドン歩いていく子供の足元には、だんごむし、かたつむり、かえるなど、様々な生き物が描き込まれています。おさんぽの最後は、水たまりに入り、はだしになって大あばれ。

梅雨時や雨の日に読むのにぴったりの1冊です。

➔ 雨をたのしむ文字なし絵本

『雨、あめ』

(ピーター・スピアー 作 評論社)





『どうぶつのおかあさん』

小森厚 ぶん

藪内正幸 え

福音館書店

動物のおかあさんたちはどうやって子供を運ぶのでしょうか？

ねこやなまけもの、はりねずみなど色々な動物の習性を写実的な絵とわかりやすい言葉で紹介する絵本。ページをめくりながら「ママと〇〇（自分の名前）」と、どうぶつの親子をひとつひとつ指さして読むもあります。

登場する人や動物に自分を同化するの、絵本や物語を読む楽しみの第一歩。気に入ったら、ぜひ何度でも読んであげてください。

➔ どうぶつのかどもの遊びを描いた絵本

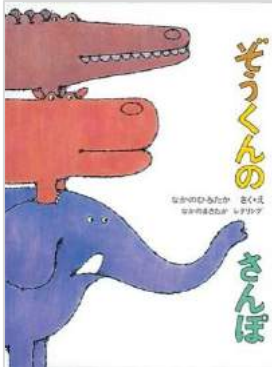
『どうぶつのかどもたち』

(小森厚 ぶん 藪内正幸 え 福音館書店)

---

---

---



『ぞうくんのさんぽ』  
なかのひろたか さく・え  
なかのまさたか レタリング  
福音館書店

夏になると、読みたくなる絵本です。会話体で進む物語は、少し絵本に慣れてきた子供向け。文のみでは状況が分かりにくいかもしれませんが、絵がそれぞれの場面の状況をよく物語っています。ぞうくんの背中にかばくん、わにくん、かめくんが順々に乗ると、期待はいよいよ高まり、大事件が起こります。そして、最後にはみんなごきげん。

→ 同じ「ぞうくん」が登場する絵本  
『ぞうくんのあめふりさんぽ』『ぞうくんのおおかぜさんぽ』  
(なかのひろたか さく・え 福音館書店)

---

---

---



『かさ さしてあげるね』  
はせがわせつこ ぶん  
にしまきかやこ え  
福音館書店

大人にとって、雨の日の外出はちょっと気が重いものです。でも子供にとっては、自分のかさをさして歩くことは楽しい冒険です。

ぞうさんのせなかには「ピッチャンパッチャン」、きりんさんの背中には「ピロリン ポロリン」と雨が降ります。

かさの上にはどんな雨が降るでしょう。子供と一緒に耳を澄ましてみてください。

➡ 雨ふりを楽しむには  
『ココさんとあめふり』  
(片山健 さく・え 福音館書店)

---

---

---



『しろ、あか、きいろ』  
ディック・ブルーナ ぶん・え  
まつおかきょうこ やく  
福音館書店

女の子が「わたしのしゃつは、しろ。」と言い、その言葉通りの色の服を着て立っています。鮮やかな服の色が、目を引きます。最後には、上から下まできれいな色の服を着た女の子のできあがり。色と服、どちらも子供がよく知っている言葉です。一緒に読むうちに子供が文をすっかり覚えて、絵を見ながら口に出すこともよくあります。服を着るとき、「ぶらうすは、きいろ。」と声をかけながら着替えてみるのも楽しいでしょう。

➔ 色を楽しむ絵本

『くまさんくまさんなにみてるの?』

(ビル・マーチン ぶん エリック・カール え 偕成社)

---

---

---



『しゅっぱつしんこう!』  
山本忠敬 さく  
福音館書店

みよちゃんとおかあさんは、特急列車に乗って、おじいちゃんの家に行きます。特急列車の次は、急行列車。それから普通列車に乗りかえて、おじいちゃんの待つ駅へ。

駅に並ぶ貨物列車や、車窓に見える新幹線、線路、鉄橋など、乗り物好きな子供にはたまらない 1冊です。余計なことを書かず、ただ事実だけを述べ、まるで幼い子供むけのノンフィクションのようです。

→ 山本忠敬さんの乗り物絵本  
『かじだ、しゅつどう』『ずかん・じどうしゃ』など  
(山本忠敬 さく 福音館書店)

---

---

---



『きんぎょがにげた』

五味太郎 作

福音館書店

金魚鉢から逃げ出した金魚が、カーテンの水玉にまぎれたり、花になったりして、ページからページへと軽やかに逃げていきます。まじまじと絵を見つめる子供、あめ玉やおもちゃを見つけて喜ぶ子供、目ざとく金魚を見つけて指差す子供など、反応は様々。

年齢による反応の違いを、大いに楽しんでください。

→ さがしものの絵本

『うずらちゃんのかくれんぼ』

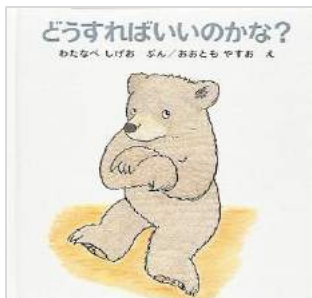
(きもとももこ さく 福音館書店)

---

---

---





『どうすればいいのかな?』  
わたなべしげお ぶん  
おおともやすお え  
福音館書店

シャツを着る、パンツをはく、ぼうしをかぶる、靴をはく。同じように身に着けるものなのに、こんなにたくさんの言葉を使い分けることに、驚いてしまいます。このような豊かな言葉を、絵本がさりりと使っていることにもびっくりします。

くまくんのように、子供とシャツを着て、パンツをはいて、ぼうしをかぶって、靴をはいて、さあ出かけましょう。

➡ くまくんのほかのおはなし

『いただきまあす』『おふろだ、おふろだ!』

『おとうさんあそぼう』など

(わたなべしげお ぶん おおともやすお え 福音館書店)

---

---

---



『しろくまちゃんの  
ほっとけーき』  
森比左志、わだよしおみ、  
若山憲 著 こぐま社

50年近く読み継がれてきた絵本です。この絵本を読んでホットケーキを作った人が3世代になるほどの年月が経っていますが、今も子供たちを夢中にさせています。焼ける音が変わっていくフライパンの場面は、どの子供も大好き。出来上がるのを真剣に待っています。

実際に、卵と牛乳、小麦粉、砂糖、ふくらしこをまぜて、親子で作ってみませんか？子供たちの満足そうな顔を見れば、台所の汚れは許してあげられますよね。

→ こんどはかすてらをつくろう

『ぐりとぐら』

(なかがわりえこ と おおむらゆりこ 福音館書店)

---

---

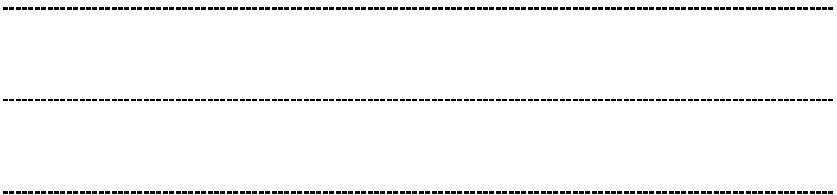
---



ページに広がる「てんてんてん」の模様。これはだれ？ そう、てんとうむし。では「ぐるぐるぐる」は？ 次々と、身近な虫が現れます。ダイナミックに描かれた虫と、それぞれの虫の特徴を表すリズムカルな言葉の響きが楽しい絵本です。

『てんてんてん』  
わかやましずこ さく  
福音館書店

➔ 足元の小さな生き物の絵が楽しい絵本  
『おさんぽおさんぽ』  
(ひろのたかこ さく 福音館書店)





『なにのあしあとかな』  
やぶうちまさゆき 作  
福音館書店

動物の足跡の絵と「なにのあしあとかな」の問いかけ。ページをめくると答えがわかります。図鑑のように精密な美しい絵で、いろいろな動物と、その足跡を楽しむことができる絵本です。

大人でもヤギやカバの足跡は意外と当てられません。大人と子供であてっこをして楽しむことができます。

➔ 子供から動物を当ててみよう  
『なにのこどもかな』  
(やぶうちまさゆき 作 福音館書店)

---

---

---



『ちいさなねこ』  
石井桃子 さく  
横内襄 絵  
福音館書店

ちいさなねこが、おかあさんねこの元を離れ、初めて一人で出かけます。外の世界は、車や、人間の子供や、その他様々な危険に満ちていますが、最後はおかあさんに連れられて家へ帰ります。

幼い子供にとっては、ちょっと家の外へ出かけるのも大冒険。そんな子供たちの心は、絵本にぴったり寄り添って、ちいさなねこと一緒に街を駆け抜けます。

➔ 幼い子が小さな冒険にできるおはなし

『こすずめのぼうけん』

(ルース・エインワース 作 石井桃子 訳)

堀内誠一 画 福音館書店)



『がたんごとんがたんごとん』  
安西水丸 さく  
福音館書店

「がたん ごとん がたん ごとん」と音を立てながら、真っ黒な汽車が走ってきます。汽車を待っているのは、哺乳瓶やコップ、スプーンなど、幼い子供にとって身近なものばかり。汽車は順々に乗客を乗せて、先へと走っていきます。

絵も文もとてもシンプルでありながら、走る道のりの楽しさが伝わってきます。繰り返しのリズムが心地良い乗り物絵本です。

→ 同じ「がたんごとん」の汽車のおはなし  
『がたんごとんがたんごとんざぶんざぶん』  
(安西水丸 さく 福音館書店)

---

---

---



『からだがかゆい』  
岩合日出子 ぶん  
岩合光昭 しゃしん  
福音館書店

ページをめくるたびに、ペンギン、アシカ、ライオン…と様々な動物が身体をかいている様子が見られます。足を使ったり周囲にある木や石を使ったり、その工夫ぶりに驚かされます。また、彼らのうっとりした表情がなんとも言えずほほえましく、心がなごみます。

「からだがかゆい」という気持ちは、幼い子にとっても身近な感覚でしょう。文中で繰り返される「かゆいかゆい」という言葉に合わせて、子供の身体をかいてみるのも楽しい読み方ですね。

➔ 岩合日出子さんと岩合光昭さんのほかの写真絵本  
『いるいるだあれ』『10ぱんだ』など  
(岩合日出子 ぶん 岩合光昭 しゃしん 福音館書店)

---

---

---



『うさこちゃんとうみ』  
ディック・ブルーナ ぶん・え  
石井桃子 やく  
福音館書店

うさこちゃんが、とうさんと海に  
でかけます。「きょうは さきゅう  
や かいのある おおきな うみに  
いくんだよ。いきたいひと だあ  
れ？」 問いかけの言葉に应运  
て、子供たちは、まるで自分がう  
さこちゃんになったように返事  
をしたり、手をあげたりします。  
はっきりした原色の絵と、耳で聞  
いて美しい言葉が印象的なこの  
シリーズは、世界中で愛され、日  
本でも 50 年以上読み継がれてい  
ます。

➡ うさこちゃんのほかのおはなし

『ちいさなうさこちゃん』『うさこちゃんとうまぶつえん』など  
(ディック・ブルーナ ぶん・え 石井桃子 やく 福音館書店)

---

---

---





『きゅっきゅっきゅっ』  
林明子 さく  
福音館書店

みんなでおいしいスープをいただきます。おや、ねずみさんが、おなかにスープをこぼしました。赤ちゃんがきゅっきゅっきゅっとふいてあげます。

子供は、自分より年下の子がいると、すぐに見つけて世話をしたがりです。ふだん自分がやってもらっていることを赤ちゃんにやってあげるのがうれしいのでしょうか。そんな姿からは、大きくなったことの誇らしさを感じられます。

➡ あかちゃんの絵本

『あかちゃん』

(ジョン・バーニンガム 作 谷川俊太郎 訳 富山房)

---

---

---



『ひまわり』  
和歌山静子 作  
福音館書店

ひまわりの種をまくと芽が出ました。ページをめくるごとに、どんどんどこ葉っぱが増え、茎が伸びて大きくなっていきます。そして最後に **どん** と見事な花が咲きます。縦にページをめくる絵本で、ひまわりが大きくなる様子がしっかりと描かれ、見ごたえがあります。夏に子供と一緒に読みたい一冊です。子供たちは「どんどんどこ」と繰り返したり、ひまわりが育っていく様子に歓声を上げたり、それぞれの楽しみ方をするでしょう。

→ 和歌山静子のほかの絵本  
『どんどんどん』『てんてんてん』など  
(和歌山静子 作 福音館書店)

---

---

---



『はらぺこあおむし』  
エリック＝カール さく  
もりひさし やく  
偕成社

葉っぱの上の小さな卵からあおむしがかえります。おなかがぺっこぺこのあおむしは、次々と食べ物を平らげて大きくなり、最後には色あざやかな蝶へ成長します。

あおむしが食べた物に丸い穴が開く仕掛けや、リズムカルな言葉の繰り返し、子供に物語を分かりやすく伝えます。コラージュの美しく豊かな色彩は、一度見ると忘れられない魅力をもっています。

➔ おなかがすいてくる絵本

『おいしいよ』

(かんざわとしこ 文 ましませつこ 絵 こぐま社)

---

---

---



『のせてのせて』  
松谷みよ子 文  
東光寺啓 絵  
童心社

「まこちゃんのじどうしゃです  
はしりますよ ブブー」と読み出し  
たとたん、子供はまこちゃんにな  
りきって、自動車に乗ってどんど  
ん走り出します。

黒い背景に白くかまぼこ型が描か  
れている絵に、「トンネル トンネ  
ル トンネル トンネル」「まっくら  
まっくら まっくら まっくら」と  
いう文章が添えられています。こ  
の絵と文章だけで、子供はちゃん  
とトンネルをくぐり抜けると分か  
るのです。

➔ 車の好きな子に

『のろまなローラー』

(小出正吾 さく 山本忠敬 え 福音館書店)

---

---

---



『ぱんだいすき』  
征矢清 ぶん  
ふくしまあきえ え  
福音館書店

パン屋さんの棚に並んだたくさん  
のパン。この中から買うものを選  
びます。色々なパンを乗せて、ト  
レイの上はいっぱいです。買って  
家に帰ったら、バスケットやお皿  
に移していただきます。  
今にも良い香りが漂ってきそう  
な、ふっくらとしたパンが描かれ  
ています。多くの種類の中から選  
び、1種類ずつトレイにのせてい  
くという、買い物の疑似体験がで  
きる本です。

→ 売り手の体験ができる本

『せきたんやのくまさん』

(フィービ・ウォージントン、

セルビ・ウォージントン さく・え いいももこ やく  
福音館書店)



『三びきのやぎのからがら  
どん ノルウェーの昔話』  
マーシャ・ブラウン え  
せたていじ やく  
福音館書店

物語性のあるものを楽しめるよう  
になってきた子供にぴったりの、  
シンプルながら骨太なストーリー  
の昔話絵本です。小・中・大と大  
きさの違う三びきのやぎのからが  
らどんたちが、順々に登場して知  
恵を働かせ、最後はトルロをやっ  
つけます。

テンポの良い繰り返しとスリリン  
グな展開、そして満足のいく結末  
が子供たちを喜ばせます。

➔ 繰り返しがたのしい昔話

『おおきなかぶ ロシアの昔話』

(A.トルストイ 再話 内田莉沙子 訳 佐藤忠良 画  
福音館書店)



『やさい』  
平山和子 さく  
福音館書店

畑で育っている野菜と、それらが八百屋さんに並んだ様子が交互に出てきます。だいこんにきゃべつ、とまと、ほうれんそう、そして最後のさつまいもは、女の子が焼き芋にさせていただきます。

写実的に描かれた野菜が、とてもみずみずしく新鮮に見えます。八百屋さんや畑に行く機会が減った今でも、子供はこの絵本が大好きです。おうちの人と台所で野菜を身近に見ているからでしょうね。

→台所の野菜やおなべで遊ぶのが好きな子に

『とだな』

(ジョン・バーニンガム 作 谷川俊太郎 訳 富山房)

---

---

---



『おつきさまこんばんは』  
林明子 さく  
福音館書店

夜空におつきさまが輝いて明るくなったり、雲が来て暗くなったり、そのたびにおつきさまの表情が変わります。最後は雲も晴れて、おつきさまはにっこり笑顔。短いながら、起承転結のあるお話です。子供はおつきさまの表情を読み取って、いっしょに悲しんだり、喜んだりします。おもしろいことに、この絵本を読んだ後、おつきさまを見ると「こんばんは」と呼びかけるようになる子供がたくさんいるそうです。

➔ おつきさまの本

『おやすみなさいおつきさま』

(マーガレット・ワイズ・ブラウン さく

クレメント・ハード え せたていじ やく 評論社)





『ぐりとぐら』  
なかがわりえこ と  
おおむらゆりこ  
福音館書店

のねずみのぐりとぐらは、森で見つけたとても大きな卵を使って、かすてらを作ります。

ぐりとぐらが工夫しながら材料をそろえ、運び、おいしそうなかすてらを作り上げていく様子に、子供たちは釘づけ。おなべから黄色いかすてらが顔を出すと、手を出して食べるまねをする子供もいます。

すでに知っている子供も多い絵本ですが、細やかに描き込まれた絵は、何度見ても新しい発見があり、繰り返し楽しんで聞いてくれます。

→ ぐりとぐらのほかの本  
『ぐりとぐらのおきゃくさま』『ぐりとぐらのかいすいよく』  
など  
(なかがわりえこ と やまわきゆりこ 福音館書店)

---

---

---



『いただきます』  
わたなべしげお ぶん  
おおともやすお え  
福音館書店

朝ごはんを前にしたくまくん。スープを口に運ぶとこぼれてしまい、フォークでパンを突き刺してたべようとすると、ほっぺたにあたって「あいたっ!」。どうやってもうまきません。そこでくまくんは考えました。何もかも混ぜて、手で食べよう。「おいしいおいしい!」

幼い子のやりたい放題の食事の様子を楽しく描いた絵本。子供はくまくんの目茶苦茶っぷりに大喜びしたり、本気で叱ったり、様々な反応を見せてくれます。

→子供が思いっきり楽しむ様子を描いた絵本  
『おさんぽおさんぽ』  
(ひろのたかこ さく 福音館書店)

---

---

---



『おおきなかぶ  
ロシアの昔話』  
A.トルストイ 再話  
内田莉莎子 訳  
佐藤忠良 画  
福音館書店

おじさんが植えたかぶが大きく育ちました。おじさんはかぶを引っぱりましたが、ぬけません。そこでおばあさんをお呼びに来て、一緒に引いてみますが、それでもかぶはぬけません。

くり返しながら、どんどん引っぱる人数が増えていく、おなじみのロシアの昔話です。このように積み重なっていくお話が子供達は大好きです。最後にかぶが見事にぬけて、大満足します。

→同じように積み重なっていく昔話

『てぶくろ ウクライナ民話』  
(エウゲーニー・M・ラチョフ え うちだりさこ やく  
福音館書店)



『ねないこだれだ』  
せなけいこ さく・え  
福音館書店

夜中はおばけの時間。こんな時間に遊んでいる子は、「おばけにおなり」と不気味なおばけが脅かします。ちょっと「こわおもしろい」気持ちを味わえる絵本です。

子供によっては、怖さを楽しんだり、反対にとても怖がったりするので、様子を見て加減をしながら読んであげましょう。

➔ 夜寝る前に読むなら  
『おやすみなさいのほん』  
(マーガレット・ワイズ・ブラウン ぶん  
ジャン・シャロー え いしいももこ やく  
福音館書店)

---

---

---



『うさこちゃんのにゅういん』  
ディック・ブルーナ ぶん・え  
いしいももこ やく  
福音館書店

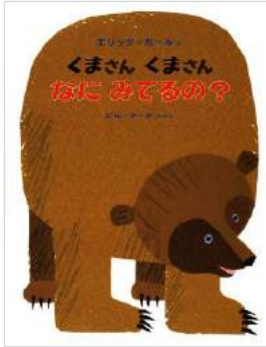
ある日、うさこちゃんが言いました。「あたし のどが へんなの。ひりひり いたい みたいなの。どうしたのかしら」お医者さんに見せると、なんと入院することになりました。

病気になったり、注射をされたりするのは嫌だけれど、病気や病院の本は大好き、という子は多いものです。身近な異常事態の感覚を、本を読むことで何度も楽しんでいくのかもしれませんが。

➔ 病気や病院に興味がある子と読みたい本。

『ひとまねこざる びょういんへいく』

(マーガレット・レイ 文 H.A.レイ 絵 光吉夏弥 訳  
岩波書店)



『くまさんくまさん  
なにみてるの?』  
エリック・カール え  
ビル・マーチン ぶん  
偕成社

「くまさん くまさん、ちやいろい  
くまさん、なに みてるの?」「あ  
かい とりを みているの。」

「とりさん とりさん、あかい と  
りさん、なに みてるの?」「きい  
ろい あひるを みているの。」

やさしい呼びかけと答えが繰り返  
されます。ページをめくるたびに、  
美しい色の動物たちが姿を現しま  
す。子供たちはその鮮やかさに驚  
き、次のページへの期待に胸を膨  
らませます。

➡ やさしい呼びかけと答えの本

『しろくまくん なにがきこえる?』

(エリック=カール え ビル=マーチン ぶん

おおつきみずえ やく 偕成社)

---

---

---



『くまのぼりす』

ディック・ブルーナ ぶん え  
まつおかきょうこ やく  
福音館書店

ある日、ぼりすは考えました。「だ  
いぶ さむくなってきた。ふゆが  
くる まえに まきの よういを  
しなくっちゃ。」森にでかけ、ま  
き集めの大事な仕事を終わたら、あ  
とはうちでゆっくり過ごします。  
深い青と緑の寒々しい背景に対  
して、暖炉の火やスープ、テー  
ブルなど、ぼりすの家のなかの色彩  
があたたかく目に映ります。冬の  
訪れをしみじみと感じさせてく  
れる絵本です。

➔ おひざの上で読んであげたいくまの本

『くまのディちゃん』

(グレッタ・ヤヌス 作 ロジャー・デュボアザン 絵

湯沢 朱実 訳 こぐま社)

---

---

---



『いないいないばあ』  
松谷みよ子 文  
瀬川康男 え  
童心社

ねこ、くま、ねずみなどの動物たちが「いないいないばあ」を繰り返します。「いないいない」で顔を隠した動物が、ページをめくると、「ばあ」と顔を出します。

小さな子供から楽しめる、単純明快な繰り返しの絵本です。読む前や読んだ後に、ぜひ子供と実際に「いないいないばあ」を楽しんでください。

→ 顔を隠して遊ぶ本

『めんめんばあ』

(はせがわせつこ ぶん やぎゅうげんいちろう え  
福音館書店)





『ねてるのだあれ』  
神沢利子 さく  
山内ふじ江 え  
福音館書店

「あかい テントで ねてるの だあれ」ページにはほおずきが一つ描かれています。次のページでは、ほおずきが開いて、丸い実が顔をのぞかせます。落花生、空豆など、皮やさやの中から様々な実が登場します。語りかけるような優しい文体の絵本。野菜や果物、木の実などの身近な食べ物が写実的なタッチで描かれています。「だあれ」で当てっこ遊びを楽しむこともできます。

→野菜の断面を当てて遊ぶ本

『やさいのおなか』

(きうちかつ さく・え 福音館書店)

---

---

---



『わたしのワンピース』  
にしまきかやこ えとぶん  
こぐま社

空から落ちてきた真っ白な布で、うさぎがワンピースを作ります。お花畑に行けば花柄に、雨が降ってきたら水玉模様に、白いワンピースは様々な模様が変わっていきます。子供は、「次はどんな模様になるのかな?」「こんなワンピースがほしい!」と期待を持って読み進めることができるでしょう。「ミシン カタカタ」「ラララン ロロロン」など、リズムのいい言葉も、この本の魅力の一つです。

➔ すてきな服の絵本

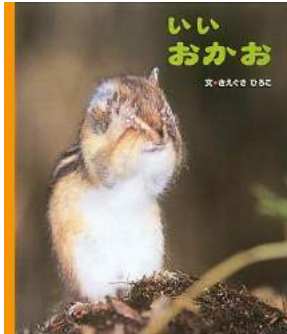
『しろ、あか、きいろ』

(ディック・ブルーナ ぶん・え まつおかきょうこ やく  
福音館書店)

---

---

---



『いいおかお』  
さえぐさひろこ 文  
アリス館

「のほほん あははん いいおかお」  
ヤギが気の抜けた顔でこちらを見て  
笑っています。チーターのきどった顔  
にネコのすまし顔、ウサギの眠たい  
顔、どれもみんな、いいおかおです。  
動物たちの豊かな表情をとらえた写  
真絵本です。

動物たちの「いいおかお」のおもしろ  
さはもちろん、リズムカルで繰り返し  
声に出したくなるような文章にも魅  
力があります。

→ 動物たちのゆかいな絵本  
『おしりがいっぱい』  
(藪内正幸 さく 福音館書店)

---

---

---



『おちばのしたを  
のぞいてみたら…』  
皆越ようせい 写真と文  
ポプラ社

落ち葉の下をのぞいてみたら、小さな小さな虫たちがいっぱい！ダンゴムシやミミズなどの身近な虫に、つやつや光る虫やふしぎなかたちの虫、見たこともないような虫が次々と登場します。

足元にひっそりと存在する虫たちの世界をのぞくことができる写真絵本です。見つけるのもやっとなくらい小さな虫の姿も大きくクローズアップされています。読んだ後には落ち葉の下の虫たちをさがしてみたくなる本です。

➔ 自然をとらえた写真絵本  
『たま、また たま』  
(星川ひろ子、星川治雄 作 アリス館)

---

---

---



『りんごがころん』  
中川ひろたか 文  
奥田高文 写真  
ブロンズ新社

「りんごがころん」「かさぱっ」「おもちぷく〜」。身近なものの様子の変化を、動きと擬音だけで表現したシンプルな写真絵本。

ページをめくるたびに起こる変化に子供たちはよく気付き、次はなんだろう？どうなるんだろう？と楽しみにしてくれます。気に入った擬音は、真似をして繰り返し口にする子もいます。声に出して読むと心地良く、くせになる絵本です。

➔ 動きと擬音を楽しむ本

『ぶーぶーぶー』

(こかぜさち ぶん わきさかかつじ え 福音館書店)

---

---

---



『ゆうびんやのくまさん』  
フィービ・ウォージントン、  
セルビ・ウォージントン  
さく・え  
まさきりこ やく  
福音館書店

ゆうびんやのくまさんは、毎朝早起きしてお仕事にでかけます。クリスマス・イブの日もくまさんはお仕事。こづつみに「ばん ばん ばん！」とはんこをおしたり、みんなにゆうびんを届けたり。どこの家でも、くまさんがいくと、とてもよろこびます。働き者のくまさんの一日を描くシリーズの一冊。隅々まで描き込まれた絵は、眺めるたびに発見があり、子供たちはくまさんの暮らしについて想像を巡らせながら楽しめます。

➔ 「くまさん」のほかのおはなし  
『パンやのくまさん』『うえきやのくまさん』  
『せきたんやのくまさん』（フィービ・ウォージントン、  
セルビ・ウォージントン さく・え 福音館書店）  
『ぼくじょうのくまさん』（フィービ・ウォージントン、  
ジョーン・ウォージントン さく・え 童話館出版）

---

---

---



『ごろんごゆきだるま』  
たむらしげる さく  
福音館書店

雪の降る中、「ごろ ごろ ごろんご」と大きな雪玉が転がってきました。次に小さな雪玉がその上に飛び乗って、雪だるまが生まれます。犬と遊びたいと思うと、手足が生えて、雪だるまは動けるようになりました。

「ふわ ふわ ふわり」「どすん どん どんたん」など、擬音が楽しい絵本です。作者の手縫い・手染めで作られたという布の絵は、冬のお話ながら、温かみを感じます。

→ 雪の中で遊ぶ絵本

『ゆき』

(ジョン・バーニンガム 作 谷川俊太郎 訳 富山房)

---

---

---



『ぐりとぐらの  
おきゃくさま』  
なかがわりえこ と  
やまわきゆりこ  
福音館書店

ぐりとぐらが森で見つけた大きな足跡をつけていくと、そこはふたりの家でした。けれど、おきゃくさまの姿は見当たりません。カステラを焼くにおいにつられて台所へとびこむと、赤いズボンに白いひげのおじいさんが「クリスマス おめでとう」と焼きたてのケーキをくれました。

おじいさんの正体は明言されていませんが、ちりばめられたヒントに、子供たちは「おきゃくさま」がだれなのかきつと気がつくことでしょう。クリスマスに読みたい一冊です。

→ 季節にあわせてよみたい「ぐりとぐら」のおはなし  
『ぐりとぐらのえんそく』『ぐりとぐらのかいすいよく』  
『ぐりとぐらのおおそうじ』など  
(なかがわりえこ と やまわきゆりこ 福音館書店)

---

---

---





『おててがでたよ』

林明子 さく

福音館書店

服を一人で着ようとがんばる赤ちゃん。大人は、かわいいなと思いますが、聞き手の子供は真剣です。赤ちゃんの手や足がちゃんと出てくるか息をのんで見つめます。「ばあー」と顔が出たり、「すぽん」と足が出てくると大喜びします。

2、3歳になると、自分で服を着たがったり、大人が着せようとするとき怒ったりします。そんな成長の一こまを親子で分かち合える絵本です。

➔ 服を自分で着るお話

『どうすればいいのかな?』

(わたなべしげお ぶん おおともやすお え 福音館書店)

『はけたよはけたよ』

(かんざわとしこ ぶん にしまきかやこ え 偕成社)

---

---

---



『はりねずみかあさん』  
まつやさやか ぶん  
M・ミトゥーリチ え  
福音館書店

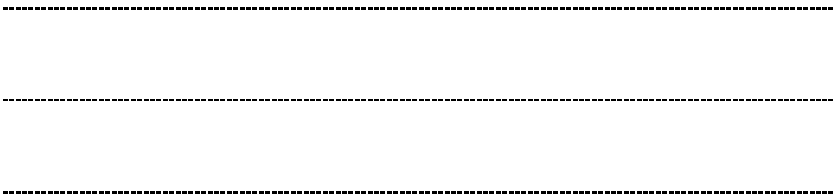
はりねずみかあさんが、りんごを見つげに出かけます。あかいりんごの木の下であかいりんご、あおいりんごの木の下であおいりんごを受け止め、子供の待つ場所へ運びます。

淡い色の絵の中で、2色のリンゴが鮮やかです。「あかいりんご みつけた」「よいしょ こらしょ」など、リズムカルな文章も楽しい、りんごの季節に読みたい本です。

→ はりねずみの絵本

『しずかなおはなし』

(サムイル・マルシャーク ぶん ウラジミル・レーベデフ え  
うちだりさこ やく 福音館書店)





『かじだ、しゅつどう』  
山本忠敬 さく  
福音館書店

火事を知らせるブザーが鳴り、消防車が出動します。ポンプ車が火を消し、はしご車を取り残された子供を助け、救急車がけが人を運びます。無事に火が消えると、消防車は掃除や手入れをされて、次の出動に備えます。

子供は、働く車の話が大好きです。派手な言葉は使わず、淡々と事実を述べる文章と、丁寧に描写された躍動感のある絵から、それぞれの車のリアルな活躍が伝わります。

➔ 消防車の絵本

『しょうぼうじどうしゃじふた』

(渡辺茂男 さく 山本忠敬 え 福音館書店)

---

---

---



『どんどこどん』  
和歌山静子 作  
福音館書店

「つちのなかで どんどこ どんどこ」。元気のよい葉っぱが描かれたページをめくると、その下でたくましく育つにんじんやだいこんが現れます。

根菜が土の中で育つ様子を力強い線でのびのびと描いた絵本。縦開きの大きなページのスケール感と「どんどこ どんどこ」という太鼓のような音の響きが絵によく合っていて、根菜の生命力を感じられます。

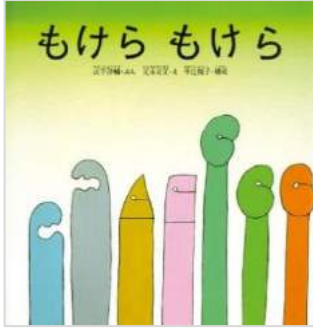
➡ 野菜の絵本

『やさい』（平山和子 さく 福音館書店）

---

---

---



『もけらもけら』  
山下洋輔 ぶん 元永定正 え  
中辻悦子 構成 福音館書店

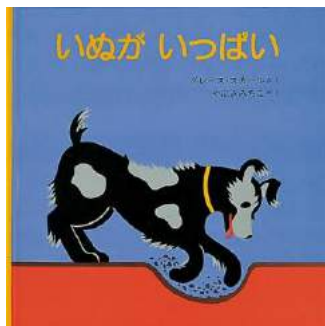
「もけら もけら でけ でけ」  
「ごあら ごあら」「だば！」。  
小気味よい音と一緒に、色とりどりの不思議な形が現れます。  
聞いたことのないような音の連なりと、抽象的な形の組み合わせがなんとも愉快で、子供を惹きつけます。  
何度も読んでいるうちに、子供も真似して口に出したり、新しい擬音を作ったりして楽しめます。

→ 音と形の組み合わせが楽しい絵本  
『ころころころ』  
(元永定正 さく 福音館書店)

---

---

---



『いぬがいっぱい』  
グレース・スカール さく  
やぶきみちこ やく  
福音館書店

「おりこうな いぬと いたずらいぬ」、「しょんぼり いぬと げんきな いぬ」。犬種に毛色にしぐさ、どれも違った犬たちが次々と登場します。さまざまな犬がページいっぱいに並んだら、みんないっしょに「わんわん」。

真っ白なページにシンプルなデザインで描かれた犬はどれも個性的で愛嬌があります。子供と一緒にページをめくってお気に入りの犬を見つけるのも楽しいです。

➔ いろいろなねこが登場する絵本

『ねこがいっぱい』

(グレース・スカール さく やぶきみちこ やく  
福音館書店)

---

---

---



『ちびゴリラのちびちび』  
ルース・ボーンスタイン さく  
いわたみみ やく  
ほるぷ出版

森の動物たちは、ちいさなかわいいゴリラのちびちびが大好きです。ある日、ちびちびはどんどん成長し、とても大きくなります。すると森のみんながやってきて、誕生日のお祝いをしてくれました。大きく成長した今でも、みんなはちびちびが大好きです。森の動物たちのちびちびへの愛おしそうなまなざしが印象的な絵本です。ページを繰るごとに現れる迫力のある動物や、大きくなったちびちびの姿に大喜びする子供もいます。

➔ 動物の子供が活躍する本

『ちいさなヒッポ』

(マーシャ・ブラウン さく うちだりさこ やく 偕成社)

---

---

---